

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	利用者一人ひとりに合わせた計画が確実に実行される仕組みが整っています
	内容	個別支援計画に基づく支援の実施状況をケース記録に記入する際に、個別支援計画の項目番号と紐づけることにより計画と支援の連動性を図り、職員は常に個別支援計画を意識しながら支援の提供を行っています。このことにより、利用者一人ひとりに合わせた計画が確実に実行される仕組みが整っています。また、相談支援事業所が作成するサービス等利用計画と事業所が作成する個別支援計画の整合性が保たれているかを「個別支援計画とサービス等利用計画の整合性」の判定表によりチェックするなど、計画に基づく支援がしっかりと行われています。
2	タイトル	夕方支援活動として余暇活動を通じて、利用者同士が楽しく触れ合える環境が整えられています
	内容	事業所では日中に行っている就労支援活動や生活支援活動だけではなく、日中活動が終了してから、希望者が実費で参加できる「夕方支援活動」を準備して余暇活動を提供しています。夕方支援活動では、ドライブやボーリング、外食、料理、ゲームセンターなどへの外出、散髪、お風呂など、多種多様なプログラムが準備されており、利用者が自分の好みに応じて自由に参加できる活動の場となっています。利用者同士が楽しく触れ合える活動の中からコミュニケーションを深め、利用者が持つその人らしさが発揮できる環境が整えられています。
3	タイトル	利用者の特技を活かすことができるよう職員はアイデアを提案し利用者と共に完成することができる環境があります
	内容	職員は利用者のできる力・好きな事を把握しています。パソコン作業や好きなことが活動の中に取り入れ、利用者が自主的に取り組めるようにしています。中には利用者の特技を商品化することもでき利用者のモチベーションを上げることもできました。商品化されたものは事業所以外でも販売し収益となります。自分で作ったものが販売される過程を知ることで更に商品化することに意欲を持ちます。利用者の特技を職員のアイデアで商品化まで進めることができる環境は事業所がもつ特徴の一つとなっています。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	先回りの支援ではなく利用者の持っている可能性を信じて待つ見守る支援が期待されます
	内容	職員は利用者支援の際に声掛けや誘導を行い本人が持っている力を引き出し、自立性を確保できるように支援しています。不得手な部分があってもよい部分を伸ばしていけるような支援に取り組んでいます。そのために就労支援や生活支援では複数のプログラムを用意し、個々の希望や特性に合わせた活動を提供しています。しかし、難しい課題を抱えていたり失敗を繰り返してしまう利用者に対して、先回りして支援を行ってしまうことがあることから、利用者の持っている可能性を信じて待つことで一歩ずつでも前に進めるよう見守る支援が望まれます。
2	タイトル	なじみの関係があるからこそ利用者と職員で交わされる言葉使いには十分な配慮が必要であると考えています
	内容	虐待防止の研修を開催することで職員は知識を得ることで支援の中で注意しなくてはならない視点を持つことができました。しかし、利用者との関係性が近いことから言葉使いに注意が必要と考えています。なじみの関係があることで利用者は居心地の良さを感じますが、第三者から見た場合違和感を感じることがあります。言葉使いの乱れが虐待に繋がることも予測し、日頃の関係性の中にも最低限度のマナーを持つことも必要です。利用者との関係性も考慮したうえで接遇のあり方を検討されることを期待します。
3	タイトル	利用者の状態変化に伴い活動内容の見直しなどへの取り組みが期待されます
	内容	利用者の平均年齢は30代半ばと比較的若いですが、利用者の中には加齢や障害特性から身体機能の低下がみられる方もいます。これまでできなかったことができるようになる利用者がある一方で、これまでできていたことができなくなる利用者もいます。事業所では、職員ばかりではなくボランティアも採用して、利用者一人ひとりに対応した、きめ細かな活動メニューが用意されており丁寧に支援をしています。こういった取り組みを活かし、活動メニューなどを含めた、利用者の状態変化には迅速に対応できる準備ができる体制の構築が期待されます。